



# 社会貢献という「価値」を中心に据えた新しい街創りの提案









### 重病を持つ子どもたちとそのご家族のケアに関して

これらの活動は1982年に英国オックスフォードで始まり、その後、カナダ、オーストラリア、ドイツ、アメリカをはじめ、多くの国々に影響を与えました。 そこでは、生命に限りのある、または生命を脅かす病気とともに暮らす、子供たち、兄弟、保護者、それぞれを主人公に、個別のニーズに合ったかかわりを行っています。そして、医療・福祉・教育の現場で活躍するスペシャリストを中心に構成されたボランティアが、友として寄り添い、残された大切な時間をともに過ごしています。





### 日本の現状に関して

2023年、およそ 1.450万人の子どもたちが、現在の日本で生活しています。

そのうち、約15万人の子どもたちが重病を患っていると言われています。

さらにそのうち、約2万人の子どもたちが、生命を脅かされる病気(Life-threatening conditions:LTC)を持つ、と言われています。

現在の日本では、これら重病の子どもたちのケアが著しく遅れています。

特に、LTCの子どもたちのケアに関しては、適切なレギュレーションすら存在しない、というのが現状です。





#### 重病を持つ子どもたちとそのご家族のケアのための施設

日本では都市型の施設がいくつか存在します

●TURUMI こどもホスピス

住所運営 大阪市鶴見区浜 | 丁目 | -77

一般社団法人 こどもホスピスプロジェクト

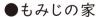
株式会社ユニクロ、日本財団

部屋数 3 室

パートナー

TSURUMI こどもホスピス





住所運営 パートナー 部屋数 東京都世田谷区大蔵 2-10-1 国立成育医療研究センター日本財団 5 室























- ●その他の施設
  - ・ユニバーサル・ワンダー・ルーム(大阪市)
  - ・奈良親子レスパイトハウス(奈良市)

2012 年 9 月設立

収容数: | 家族

2010 年9月設立

収容数:宿泊 | 家族、日帰り5家族





### わたくしたちが考える施設

重い病気を持つ子どもと、そのご家族にはさまざまな困難があります。もちろん、子どもも大変ですが、そのご家族も同様に大変なのが現状です。

子供の現状

- ・健康体のお子様が普通に経験できることができない
- ・病気による痛みやその他苦痛が常に存在する



- ・重病のお子さんを抱えているご家族は消耗しきっている
- ・経済的にも精神的にも追い込まれている
- ・子供がいるから 24 時間、解放される時間がない
- ・世間の目からも追い詰められている (子供を置いてリフレッシュすることに引け目を感じる)

こもの リトリート

- ・子どもたちとご家族の「癒しの場」でありたい
- ・都市型の施設と「両輪」になりうる、リゾート型の施設を創造したい (重病の子どもたちを抱えるご家族には実現困難な"家族旅行"を実現させてあげたい)
- ・高齢化&人口減少の僻地において、社会参画の喜びの機会を創造したい

社会の現状

- ・インターネットの出現がもたらしたパラダイムシフトがひと段落し、 多様化した価値観は「人と人のリアルな繋がり」を重要視するようになっている
- ・多様化する社会の中で「自分の役割」を模索する価値観が 台頭しつつある

地域の現状

- ・高齢化と人口減少は、僻地だけでなく郊外地における、 日本全体の喫緊の問題
- ・高齢者の方々に社会参画の喜びの機会を創造し、 豊かな老後を送れるまちづくりが求められている

~世界一優しい《こものリトリート》を軸とした街創りを目指す~





### 本施設 設立目的と計画に関して

#### ●目的

2023 年、およそ 1,450 万人の子どもたちが、現在の日本で生活しています。そのうち、約 15 万人の子どもたちが重病を患っていると言われています。

さらにそのうち、約2万人の子どもたちが、生命を脅かされる病気(Life-threatening conditions:LTC)を持つ、と言われています。

現在の日本では、これら重病の子どもたちのケアが著しく遅れています。

特に、LTCの子どもたちのケアに関しては、適切なレギュレーションすら存在しない、というのが日本の現状です。

また、忘れてはならないのが、子ども達もたいへんですが、同様にそのご家族も、たいへんなのです。

重病に立ち向かう子ども達とそのご家族の毎日は、文字通り、情け容赦のないものです。

そんな過酷な毎日に、少しの「癒し」になりたい。

また、そのような、子ども達とご家族の過酷の日常は、ともすれば、社会との繋がりを希薄にしがちです。

「私たちは社会と繋がっている」... そう思えること自体が、過酷な日常と闘うための、何よりのエネルギーになると私たちは考えます。

温かい町ぜんたいで、温かい社会ぜんたいで、たいへんな子ども達とご家族の日常を支える

それが「こものリトリート」の考えです。

#### ●ソーシャルビジネスの提唱

わたくしたちは、「人間の英知によって、弱い立場に置かれている人々を救済する社会の新しいしくみづくり(ソーシャルビジネスの形態)」の実現を目指しております。

社会貢献と収益事業を組み合わせた持続可能な事業 = ソーシャルビジネスを、菰野の皆さんと共に、地域の自立的発展を目指して作り上げていきたいと考えます。





### 《こものリトリート》の子どもケア施設への考え方

子どものケア施設に対する、こものリトリートの考え方は、単なるケア施設の提供ではなく、子どものケアだけでなく、そのご家族のケアの両面で支え、さらにそのケアを街全体でサポートするシステムの構築を目指しております。

それに伴い、下記のようなシステムを構築し、運営していく計画です。

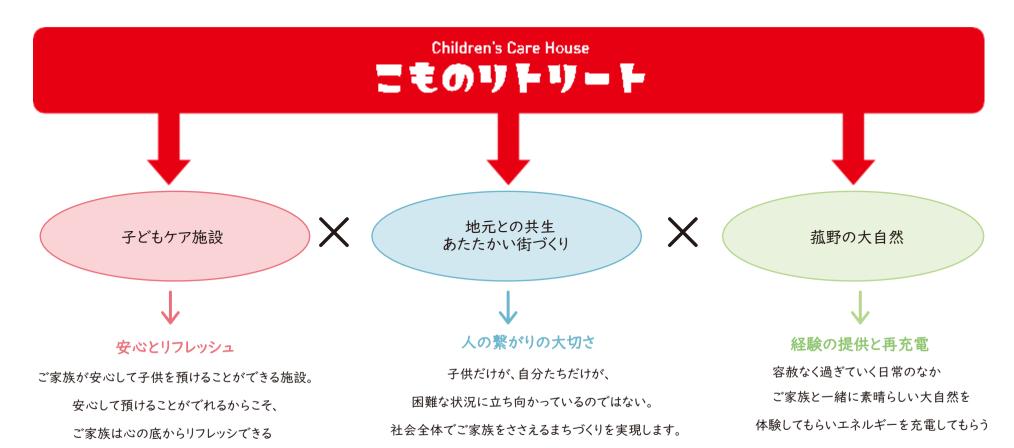






### 《こものリトリート》の独自性

大自然に囲まれた素晴らしい環境である菰野町の立地を活かし、わたくしたちのコンセプトである《重病を持つ子どもたちとその家族のケア施設》と《地元との共生によるあたたかい街創り》を掛け合わせ、子どもやそのご家族を地元が一体となりサポートする、色彩豊かな菰野の大自然の要素を取り入れることで、子どもやそのご家族に日常では経験することができない素晴らしい経験を提供する施設として、《こものリトリート》を展開する計画です。

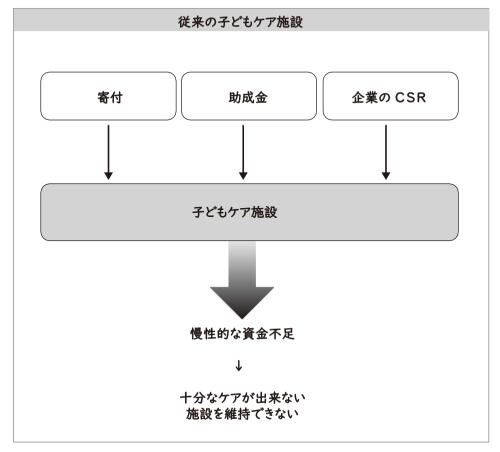






### 《こものリゾート》子どもホスピス病院の事業モデルに関して

一般的に「ホスピス」事業は、その設立主旨から、運営資金の多くを寄付であったり補助金に頼らざるをいないのが現状です。 「こものリトリート」では、事業を恒久的な継続するため、また、収益性が見込めるソーシャルビジネスとして存在させるため、地元と共生し共感する 人々と共に新たな収益事業の構築することでホスピス事業の下支えとし、事業全体での収益事業化を目指します。





趣旨への共感

新たな収益事業

地元への社会貢献

地元産業の活性化

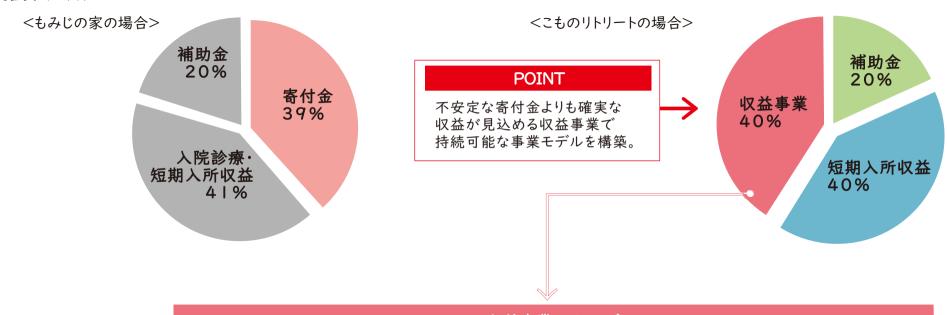




#### 収益事業に関して

こものリトリートを持続可能な施設運営をするために下記の事業を展開し、その収益を不足分として充当させ、持続可能な事業モデルを構築いたします。

#### 運営費用の割合



## 収益事業のイメージ

例:《バイオマス》地元の間伐材などを利用したエネルギー循環地元の森林組合や酪農事業者と協業

林業の間伐材を利用したバイオマス発電機を設置

- ·間伐材 →木質チップを使ったバイオマス発電し、自家消費及び売電
- ・発電機から発生する熱を地域の温泉施設へ供給





# 《こものリトリート》施設イメージ

《こものリトリート》は「森に抱かれたケア施設」。森など菰野町の自然が持つ色鮮やかな色彩。農業ハウスの収穫物の恵み、彩り。色鮮やかな大自然を経験することは、それ自体が最高の贅沢です。無機質なイメージとは違う「こものリトリート」ならではの、世界で唯一無二のケア施設を目指します。











団体名 一般財団法人夢ノ社

所在地 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-12-15 勝川ビル2F

電話:052-253-6669

FAX:052-253-6663

代表理事 白浜 龍男

URL <a href="http://www.yumenosya.or.jp">http://www.yumenosya.or.jp</a>

問合せ先 yumenosya@yumenosya.or.jp

Facebook <a href="http://www.facebook.com/YUMENOSYA">http://www.facebook.com/YUMENOSYA</a>



わたくしたちと一緒に

世界一の子どもケア施設と新しい街創りをしませんか?

\_\_\_\_\_